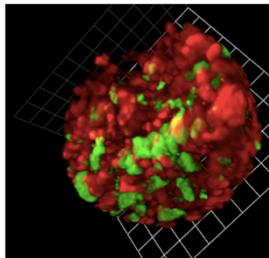




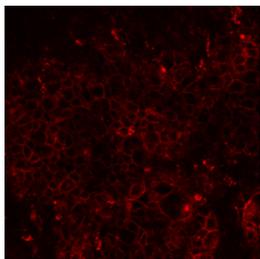
主に西日本地区における生体深部観察支援を行います。具体的には、多光子励起顕微鏡を用いて、生きているモデルマウスの脳やがん組織などさまざまな組織や疾患を対象に、リアルタイムイメージングや三次元画像構築を支援します。そのために独自で開発した長波長・補償光学対応の多光子励起顕微鏡を3台完備しています。さらに、生体用共焦点レーザー顕微鏡と共焦点レーザー・マクロズーム一体型顕微鏡、超解像顕微鏡(SIM)や光シート顕微鏡を用いた生体観察にも対応可能です。



骨転移モデルマウスにおける、骨髄内の乳がん細胞の細胞周期イメージング(赤:G1期、緑:S/G2/M期)



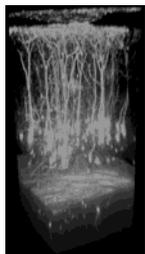
長波長・補償光学対応多光子励起顕微鏡(1号機)、動物実験室内にあり、長期間の継続的観察が可能。



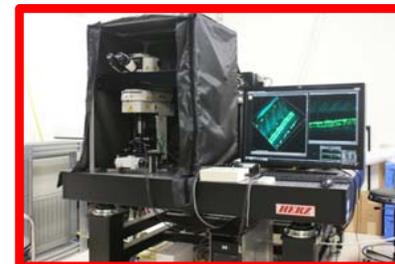
皮下移植モデルマウスに、蛍光標識した抗CEA抗体を投与後に、多光子励起顕微鏡で生体がん細胞イメージングを行った。



長波長対応多光子励起顕微鏡(2号機)



長波長対応多光子励起顕微鏡を用いたH-lineマウスの生体脳の3Dイメージング。大脳新皮質の錐体細胞のみならず海馬の細胞もイメージングされている。



補償光学対応多光子励起顕微鏡(3号機)